

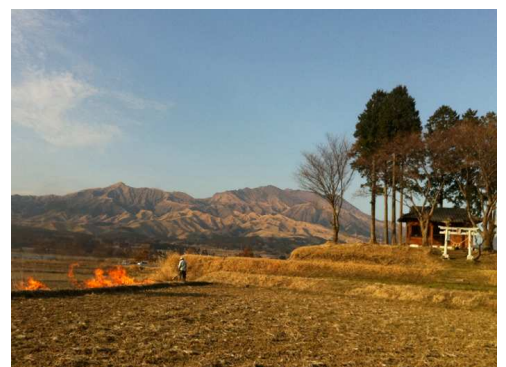
刻一刻と変化するニュース。恐ろしすぎて、何を書いていいかわからない、というのが正直なところです。皆様、そして皆様の家族や親戚、友人の方々がご無事であることを心からお祈り申し上げます。油断のできない状況はまだ続いています。南阿蘇村に避難したい方がいらっしゃいましたら、どうか遠慮なくおっしゃって下さい。快適な家を用意することはできないかもしれませんが、危険が少しでも和らぐのであれば、そちらを優先されてください。私たちにできることは何かを考えているところです。それでも、東北沿岸の農地が使えなくなるかもしれないと考えたら、まずは目の前の田んぼや苗の準備を精一杯やるのが、私たちの役割なのでしょう。スーパーから食料品が消えている。そんな現実を前に、活かせる農地を使って、できるだけ安全な農産物を作り続けることができるよう、努力をしたいと思えます。



実は、私が仕事のために子供たちを連れて東京に行っている間に地震にあいました。4日間の滞在中、3日間は仕事の予定が入っており、たまたま1日だけ空いていたので、子供たちと過ごしていた時でした。電車が大好きな子供たちを連れて、どこかに遊びに行こうと思い、「好きなところに連れて行ってあげる」と言ったところ、実家から歩いて3分くらいの公園とのリクエスト。東京に来てまで公園！？と拍子抜けしつつも、子供たちの要望を素直に聞いたことが幸いしました。実家に帰ってみると、足の踏み場もないほどグチャグチャ。陶器やガラスの破片が床一面に散乱。もし電車に乗っていたら…。もし家の中にいたら…。考えただけでもぞっとします。被害の大きいところの比ではありませんが、不幸中の幸いに心から感謝しました。それにしても、被害があまりに大きく、言葉もありません。早く余震もおさまり、復旧が進むことをお祈りしております。そして、原発の核燃料爆発がどうかどうか起きませんように…

放射能の危険を少しでも避けようと、従兄弟の子と友人親子が来ています。友人（ドイツ人）はチェルノブイリの事故を経験しており、最初のニュースを聞いた後にすぐ避難を決定。子供を少しでも安全な場所へ移したいとの事で、しばらくこちらに滞在することになりそうです。そんなわけで、我が家は目下8人家族。それだけならまだしも、なんと女は私1人なんです。よく働く男性たちなので、どうにかなくてはありますが。横浜育ちの従兄弟の子は4月から1年生。アリが来た、カエルってどれ？虫が飛んでる～。と数々の感動！？こんな状況ではありますが、彼にとってはよい「農村体験」なのかもしれません。

地震の話題で、田んぼや畑の様子が後回しになってしまいました。田んぼと苗の準備が始まっています。あぜ草を焼いたり、苗づくりに備えてビニールハウスの片づけをしたり、堆肥の準備をしたり。3月下旬になると、準備はさらに本格





化します。ところで、今月から我が家に助っ人が来ています。お米作りの勉強がしたい！という「もっさん」こと大森博さんが我が家を訪ねてきたのは2月末のこと。人に教えるほどの腕前だというサーフィンをしながら農家でバイトをしているうちに、自分も農業がしたい、と思うようになったとか。まだ子供も小さいので、新しい仕事を始めるなら今のうち、ということで一念発起したそうです。1年間の研修制度に応募して採用されたのは良かったのですが、派遣されたのは野菜農家。でも

彼がやりたいのは米づくり！ということで、インターネットでおあしす米生産組合を探し当て、年齢が近いという理由で我が家にあてがわれ(?)ました。まだ仕事をはじめて数日しかたっていませんが、何事にも熱心に取り組んでくれる、頼もしい助っ人です。そんなわけで今年の米づくりは、新たな顔ぶれも交えて、にぎやかになりそうです。

ところでこの冬の寒さと雪の影響で、タカナがなかなか伸びません。毎年3月にお届けしているタカナですが、今月は残念ながら間に合いませんでした。試しにとってみたものの、まだまだ細く小さい。種をまいたのは去年より早いくらいだったのに、やはり気温が足りなかったのでしょうか。楽しみにされていた皆さま、ごめんなさい。

東京から帰った翌日、シイタケの菌を原木に打ち込む作業をしました。東京に行って、帰ってくるたびにこのギャップがおかしく感じるのですが、今回はまたひとしおでした。前日までは余震や放射能を恐れて外出せず、びくびくしながらやっとの思いで電車に乗って空港へ行ったのに、一晩寝たら「田舎暮らし」に戻っているのですから不思議です。シイタケの菌打ちは、子供たちにも人気の作業。今年は総勢6人の子供たちと一緒に、子供キャンプのような状態でやりました。原木は昨年秋にクヌギを倒し、丸太に切って運んできておいたもの。ちなみにシイタケが生えてくるのは、ふた夏を越してから。来年の秋にはとれ始める予定です。



農作業が忙しくなる前に、と竹炭を焼くワークショップもしました。先月、風雨で倒れた炭焼き小屋を再生。前より立派になったと近所の人たちに喜ばれて浮き足立ってしまったのか、焚き火を見て酒の回るのが早かったのか、いざ竹炭を焼いてみたら、温度が足りずに竹の燻製ができあがってしまいました。うーむ、やはり立派な小屋だけでは炭は焼けませんね(苦笑)。地域のおじさんやおじいさんたちにしっかり習っておかないと。懲りずにまたやりたいとは思っていますが、一晩中火の番をしなければならないので、来冬になってしまうかもしれません。

にぎやかな毎日で、楽しげに遊ぶ子供たちを見るとつい顔がほころびますが、いま日本が置かれている状況を考えると、厳しい顔つきに戻ってしまいます。家や家族を失った人たちを、どうかお手伝いすることはできないか。私たちにできること、私たちだからできること。家族で話し合いながら、行動に移していきたいと思えます。そして繰り返しになりますが、もし身近に南阿蘇に避難したいという方がいらっしゃいましたら、ご相談ください。どうか皆さまがご無事でありますように心よりお祈り申し上げます。

